

図書館だより

天理高校 図書館 2021年9月

読書の秋の始まりです



9月というのに、まだまだ真夏のような暑さが続いています。皆さん、身体と心の調子はいかがですか？「何んとなく、だるいなあ」と、本調子でない人も多いと思います。そんな人のために、今月は、「心を整える」本の特集をしています。気になる本があれば、ぜひ手にとって読んでみてください。あなたにぴったりの心が元気になるヒントがあると思います。

第165回芥川賞・直木賞が7月14日に決定しました。今回は、芥川賞の受賞作と作者を紹介し、受賞作や関連本が、図書館にありますので、ぜひみにきてください。

「心を整える」本を特集!!

『脱・呪縛』
鎌田 實 (著) 理論社

作家でもある医者の方鎌田さんが、中高生に向けて書いた作品。生きづらさをうむ心の呪縛から、自分の心を自由にする方法を教えてください。

<館内写真 ①>「心を整える本」



<館内写真 ②>「心を整える本」



『眠る前に1分間ください。明日、かならず「良いこと」が起こります。』

植西 聰 (著) WAVE 出版

「先のことを考えると不安が消えない」「ひとりぼちな気がして寂しい」そんな気分を抱え込んでいる人に読んでほしいです。眠りにつく前に1分間は、これからを輝かせるための大切な時間。心の状態をマイナスからプラスにするにはどうしたらよいか、この本にはその方法が書かれています。

<館内写真 ③>「スポーツの秋」



芥川賞が決まりました。
受賞作品と作家を紹介します。

『貝に続く場所にて』

石沢 麻依 (著) 講談社

ドイツの学術都市に暮らす私の元に、震災で行方不明になったはずの友人が現れる。人と場所の記憶に向かい合い、静謐な祈りを込めて描く鎮魂の物語。(講談社 HP (内容紹介) より)



石沢 麻依 (いしざわ まい)

1980 年生まれ。東北大学大学院文学研究科修士課程修了。2021年「貝に続く場所にて」で、第64回群像新人文学賞を受賞しデビュー。

『彼岸花(ひがなばな)が咲く島』

李 琴峰 (著) 文藝春秋

その島では「ニホン語」と「女語」が話されていた。記憶を失った少女が流れ着いたのは、ノロが統治し、男女が違う言葉を学ぶ島だった。不思議な世界、読む愉楽に満ちた中編小説。(アマゾン HP「内容紹介」より)

李 琴峰 (り ことみ)

1989年生まれ。中国語を第一言語としながら、15歳で日本語を学習。また、その頃から中国語で創作を始める。2013年台湾大学を卒業後来日。15年早稲田大学大学院日本語教育研究科修士課程を修了し、16年民間企業に就職。17年「独舞」にて第64回群像新人文学賞優秀作を受賞しデビュー。18年末に、勤務先を退職。19年独立起業し、以来、作家、翻訳家、通訳者として活動。



芥川龍之介賞



文藝春秋の創始者・菊池寛が友人である芥川龍之介の名を記念し、直木賞と同時に昭和10年に制定しました。雑誌に発表された、新進作家による純文学の中・短編作品のなかから、最も優秀な作品に贈られる賞です。正賞は懐中時計、副賞は100万円、受賞は年2回で、上半期の選考会は7月中旬、下半期の選考会は翌年1月中旬に行われます。



「天高図書館所蔵の本のポップを、書いてください!!」

全国学校図書館ポップコンテスト(ポプラ社主催)に応募しませんか?

大きさは、A5以内

本は天高図書館にある本

締切は十一月三十日(火)

紙またはWebで応募できます。

詳しくはポプラ社のHPをみるか、天高図書館カウンターにたずねてください。



<館内写真 ④⑤>

「おいしい本はいかが」